

急ぎすぎる足がもたらす過ち

箴言 19 章 2～3 節には、次のように記されています。

知識がなければ欲しても不毛だ。あまり足を急がせると過ちを犯す。人は無知によって自分の道を滅ぼす。しかも主に対して心に憤りをもつ。

→Also, that the soul be without knowledge, it is not good; and he that hasteth with his feet sinneth.

また、魂に知識がないのは良くない。足を急がせる者は罪を犯す。

The foolishness of man perverteth his way: and his heart fretteth against the LORD[King James Version].

人の愚かさはその道を曲げ、その心は主に対して憤る。

この聖句は、焦りがいかに判断を狂わせ、人生の道を誤らせるかを警告しています。まさに、日本のことわざ「急いては事を仕損じる」の霊的な言い換えと言えるでしょう（せっかちな私には、非常に耳の痛い言葉です）。

現代社会は「速さ」を重視する傾向があります。即断即決即行、即応即結果。すぐに結論を出し、すぐに成果を求める。それ自体がすべて悪いとは限りませんが、聖書は私たちに「拙速さよりも確かさ、焦りよりも知識（知恵）」を選ぶようにと教えています。

聖書は、「知識がなければ欲しても不毛だ」と言います。これは、正しい理解と知恵を持たないままに、なりふり構わず突き進むことは、実を結ばないどころか、場合によっては、災いを招いてしまうということです。つまり、正しい動機があったとしても、準備や理解を欠いた行動は、結果として「失策」「失敗」「過ち」となり得るのです。

次に、「あまり足を急がせると過ちを犯す」と続きます。ここで注意すべきは、焦ること自体が罪とは言われていないことです。しかし、焦りによって神の導き（定められた時）を待たず、自分の思いと力だけで走り出してしまうとき、私たちは大きな落とし穴に陥る危険性があるのです。

さらに恐ろしいのは「人は無知によって自分の道を滅ぼす」という御言葉です。人は自分の愚かさによって道を踏み外し、しかも主に対して心に憤りを持ってしまい、自分の焦りが招いた失敗を、神様のせいにしてしまうのです。そして神の導きを待たず、自分の計画や感情に任せて突っ走った結果、道を誤り、そして「なぜ神は私にこんな仕打ちを」と嘆くのです。

このような過ちを避けるために、聖書は私たちに「主を待ち望む」ことの大切さを繰り返し記しています。詩編 37 : 7 では、「沈黙して主に向かい、主を待ち焦がれよ。繁栄の道を行く者や／悪だくみをする者のことでいら立つな」と語られています。焦りの代わりに、神への信頼と忍耐をもって歩む時、主は必ず最善の道へと導いてくださいます。

イエス・キリストご自身も、公生涯を始める前に 30 年間待たれました（ルカ 3 : 23a）。そして、一つ一つの行動において、父なる神の定められた時と導きを重んじられました（ヨハネ 5 : 30）。

私たちもまた、そのキリストに倣い、焦らず、主の御声を聞き分けながら歩んでいきたいと思ひます。

→ルカによる福音書 3 : 23a イエスが宣教を始められたときはおよそ三十歳であった。

→ヨハネによる福音書 5 : 30 わたしは自分では何もできない。ただ、父から聞くままに裁く。わたしの裁きは正しい。わたしは自分の意志ではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行おうとするからである。」

→ヨハネによる福音書 15 : 5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。

人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。



焦りではなく、祈りと神への信頼をもって、神様と共に一步一步を歩むとき、主は私たちの道を正しく備えてくださることを確信し、歩んでいきたいと思ひます。